

この「旅行先で時計を見るために」は次の単行本の翻訳を元にしてしています。

旅行事典：「時計博物館と歴史的計時機器収集館」

クリスチャン・プファイファー=ベッリ、クリストフ・B・コンラート 編

CALLWEY / ミュンヘン、1992年 (1997年 Selva より購入 €9.0)

Das Reiselexikon : Uhren-Museen und Sammlungen historischer Zeitmesser

Christian Feiffer-Belli und Christoph B. Konrad

Callwey / München 1992

ドイツ語原著の翻訳内容をそのまま記載したものではありません。構成、内容は原著とかなり異なっています。出版後 28 年経過しているため、以下の様に、すべての施設の現在の状態を HP から確認して、修正あるいは訂正しましたので、参考にしてください。詳細は下記の説明をお読みください。

[翻訳にあたり]

1. 原著は、1992 年刊行です。ドイツの項では郵便番号 Postleitzahl が、W-1234、O-1234、と東西ドイツで書き分けられています。1990 年ドイツ再統一の後、1993 年に郵便番号表記も東西で統一されて 5 桁の番号が導入されました。本文では HP で確認し、D-12345 のように訂正しました。

2. 記載内容の根拠が古いと考えられるので、すべての博物館その他の施設を HP で閲覧確認し、すべて 2022 年現在のものに書き直しました。本書出版時にはなかった、連絡先 Email address と HP の URL の項目を加えました。原文では、目録の有無を示す項目のみですが、目録とカタログを分けて記載しました。ただ、目録に関してはそれぞれの HP には、必ずしも記載がないので表示していない場合もあります。

- ・開館時間：COVID-19 後の再開で多くの施設で開館時間が変更されています。全施設を確認修正しました。
- ・調査研究：ほとんどの施設は、あらかじめ相談が必要、あるいは、利用不可です。
- ・電話：+81 など、国別番号を付けた国際電話に対応した表記に統一されていません。
- ・E-Mail：HP 内から直接メールを発信するように設定した施設も多いので、記載がない場合があります。
- ・Website：必ずしも当該施設固有の URL ではありません。所在地域あるいは管理している団体の HP から博物館にリンクしていたり、博物館検索アプリからの引用だったりします。大きな HP では、便宜上、時計に関する記載のあるページを示してあります。
- ・目録：原著では「配布していない」となっている場合、「利用不可」と記載しました。
- ・カタログ：電子データでの公開が一般的になりつつあるようです。かなりの施設 HP では、電子カタログ、バーチャルツアー、などが掲載されています。あらかじめ、これらを閲覧することをお勧めします。

3. 原著には、所蔵されている時計とその他の機器が以下の様に 10 項目に分類されて表示されています。1992 年刊行時点の古いものですが、大変参考になるデータなので、そのまま変更することなく収録しました。原著中では、関連のあるあるいは所蔵されている項目のみが示されていますが、訳出に当たり、すべての項目を示し、その施設ではどの項目がその収集品に該当するかを明らかにするようにしました。

それぞれの項目で、“ - ” は、所蔵品がないことの意味ですが、所蔵品のある場合は “ + ” で 3 段階に示してあります。“ + ” ~ “ +++ ” は単に所蔵品の数量を示す以外に、所蔵されている各種の時計の歴史的、美術的ないしは技術的価値さらには希少性など、コレクションとしての価値などを、総合的に判断して示していると考えられます。従って、収集品の数が少ない場合でも、そのコレクションの価値が高い場合は、+ の数が多くなっていると思われれます。

項目の名称は、原文の直訳はわかりにくいので、よりわかりやすい通称に書き直しています。

REF:

- 壁掛け時計 Wanduhren ふつうの掛け時計。
- ホールクロック Standuhren ホールクロック、床置き時計、いわゆる「お爺さんの時計」。
- 装飾時計 Konsoluhren 特に美術的な装飾が施されている芸術的価値の高い時計。置き時計、掛け時計の両方がある。
- 懐中時計 Taschenuhren 球時計に始まるいわゆる懐中時計のほか、キャリッジ時計、御者時計など運搬可能な時計も含まれている。
- マリンクロノメーター Marinechronometeter そのままの意味、航海用精密時計である。
- 精密振り子時計 Präzisionspendeluhren 特に精密と断つてある。レギュレーターのように、精密な機構と機能を持つ振り子時計。
- 腕時計 Armbanduhenr いわゆる腕時計。
- 電気式時計 Elektrische Uhren ムーブメントの原動力を、電気に頼っている時計。
- 塔時計 Turmuhenr 教会や大きな建物の時計塔で使われるムーブメント。
- 科学機器 wiss, Instrumenten 時計製作のための機器が主であるが、天文、測地、航海、計時に使われる専門的機器も含まれる。また、施設内に時計工房が再現されている場合も含まれる。
- 日時計 Sonnenuhenr 時刻表示を太陽の位置で示すもの。

4. 原著には、当該施設についての説明が付いています。内容は施設の歴史的な説明、特徴、その施設が時計収集の中心項目としている事項、所蔵品の中で特筆すべきもの、等々です。残念ながら、その記載には統一性があるように見えません。原著に説明が簡単すぎるあるいは全く記述のない場合には HP を参考にして、「訳追記：」として、施設とコレクションについて簡単な解説を記載しました。また、説明がある場合にも、必要に応じてその施設の由来、歴史的変遷その他補助的な内容をわかる範囲で付け加えました。

原著の刊行以来 30 年近く経過しているので、記載されている施設が閉鎖、消滅、廃業、売却、移転、移管など変化している場合が多々見られます。その場合、分かった範囲で詳しく解説

したので、参考になると思います。

5. 原著には、所々モノクロ写真とその説明が挿入されています。多くがモノクロ映像としては大変上質なものです。原著では、写真が記載とは別のページに示されていることもありますが、それらは当該の項に「▷図の説明」とともに掲載しました。別に、カラー図版もあるので、本文と分けて、別の記載項目として説明と共に示しました。

6. 「説明：」ならびに「訳追記：」、場合によっては、「図の説明：」の中に語句に追加の説明や解説が必要と考えた場合には、その語句の後ろに、(訳注：)として説明あるいは解説を入れました。文中に適宜挿入したので、読みにくくなったことが欠点ですが分かりやすくなったと思います。

7. 2019年以來、新型コロナウイルスの世界的蔓延 COVID-19 で、ほとんどの施設が、感染拡大防止のため閉館していました。2022年には欧米では感染予防のための制限が解除され始め、博物館も再開されています。再開後、開館スケジュール、開館曜日と時間、が変更された施設が意外と多くありました。特にイギリス、米国で顕著です。再度、すべての施設にあたって確認修正しました。

少数の、まだ再開されていない施設があったので、平時のあるいは COVID-19 以前の開館時間が分かる場合は併記してあります。しかし、上記のように、将来再開された時の開館スケジュールが以前と同じとは限らないので、そのときが来たら、HP で確認して下さい。

近年、施設の管理運営の母体に変更されている場合が時々見受けられました。一つは、主として経済的な理由で維持管理が困難になった結果、当該施設を維持するための努力工夫の結果です。このような場合、その施設の管理委員会、管理基金、友の会などを立ち上げるなどして施設が維持継続されています。他の例では、近年流行している公的施設のリノベーションによるもので、地区の博物館、美術館、時には学校など複数の施設をまとめて、総合文化施設として再開運営されている場合です。これらに伴って、施設の名称、新しい管理団体の住所、電話、E-Mail、URL などの種々の変更があまりました。これも逐一修正しました。

ほとんどの HP は、他のメディア、Facetime、Twitter、Pinterest その他とデータをシェアできるようにになっています。コレクションの画像データはこれらを使って集めることもできます。

BON BOYAGE!

素敵な旅行となりますように。

古典時計協会 NAWCC108 会員

脇田 稔

% ご覧いただいて、記載の誤りや誤植、現状の変化などを見つかり場合は、本会事務局までお知らせください。確認して修正します。